

育児休業の取得事例

所 属：技術部 理工学系技術部
氏 名：増山 静香
取得期間：2022年1月～2024年4月



(取得したいと思ったきっかけ)

技術部の先輩方が複数、育児休業を取得されていたため、自然と「自分も取得するのが当たり前」という気持ちになりました。

また、母から「1年で復帰するのは大変」とアドバイスを受けていたこともあり、当初から2年近く取得したいと考えていました。

(配偶者の反応)

育児休業を2年近く取得したい旨を伝えたところ、驚いてはいましたが、最終的には了承してもらうことができました。

(上司・同僚の反応)

皆さん笑顔で快く送り出してくださいました。

(取得にあたって準備したこと（仕事面）)

次世代育成職員への引継ぎ準備を行いましたが、引継ぎ期間が短かったため、可能な限りマニュアルや資料を作成しました。

また、同じ部署の皆さんにも仕事内容を共有し、休業中の連絡先なども事前にお知らせしました。

(取得にあたって準備したこと（家庭・子育て面）)

育児休業は1年を過ぎると金銭的なサポートがなくなるため、家計のやりくりが可能かどうかを確認しました。

(育児休業中どう過ごしたか)

育児を中心に過ごしながら、業務相談のメール対応や学内メールの確認もできる限り行いました。

復帰時期が近づいた頃には、次世代育成職員からの引継ぎを受けるため、数回職場に足を運びました。

(復帰後の働き方と育児について)

子どもの体調不良でお休みをいただくことが頻繁にありました。休業中に業務を共有していたおかげで、復帰後も部署の皆さんにサポートしていただき、大変感謝しています。

(育児休業を取得した感想)

子どもが2歳になる頃まで成長を見守ることができました。

また、育児休業2年目に入る頃に夫の転勤があり、仕事復帰とワンオペ育児開始のタイミングをずらせたことは非常に良かったと思っています。

(これから育児休業を取得する職員へのメッセージ)

育児休業は、子どもの成長をしっかり見守ることができる貴重な時間です。

金銭的な問題もありますが、可能な限り取得し、出産後の身体を回復させる時間を持つことをおすすめします。

【職場・周囲で工夫した取り組み（上司から）】

当所属では、職員が育児休業を取得するにあたり、担当業務の内容を整理し、代替職員への引き継ぎを十分に行つた。特に、業務手順書の整備や案件ごとの進捗状況を共有することで、休業開始後も大きな混乱が生じることなく日常業務を継続することができた。

また、休業期間中は、定期的に休業中の職員とメールにて連絡を取り、体調や家庭状況、育児の様子などを確認した。こちらから一方的に情報を伝えるのではなく、職員の負担にならない範囲で現状を共有することで、休業中も職場とのつながりを保てるよう配慮した。

さらに、復帰に向けた調整として、復帰予定期や勤務形態についてこまめに連絡を取り合い、本人の希望や家庭状況を踏まえた柔軟な働き方を検討した。これにより、職員が安心して復帰準備を進めることができたほか、所属内でも必要な人員調整を事前に行うことができた。

これらの取組により、職員の育児休業中も職場の仲間であり続ける安心感や復帰後の不安解消にも繋がるため日常的な雑談等も大変重要な要素であると考えている。